

野菜作りの楽しさ

三枝 勉

SAEGUSA Tsutomu

NTT インフラネット(株)
本誌編集企画小委員



職場の同僚から話を聞いたのがきっかけで始めたのが、自宅近くにある農園での野菜作りです。この農園は、市が農家から借りた土地を整備して、1区画15m²の土地を約2年間貸し出す“市民農園”のことで、2年毎に厳正なる抽選のうえ利用者が決められます。そんな農園に、それほどの思い入れもなく応募したのが6年前。それまで全くと言っていいほど野菜作りに縁もゆかりもなかった自分が、今ではこの農園以外にも、自宅の庭に畑を作ってしまったありさま。皆さんには、この野菜作りに至るまでの経緯や、作り出してからの楽しさについて紹介したいと思います。

ことの始まりは夏のある飲み会の席で。同僚から「食べきれないほどのキュウリやナス、トマトができてしまい、貰って欲しい」とお願いされたことからでした。詳しく話を聞くと、「農園で畑を耕し、種を蒔き、肥料をやって、アブラムシがどうのこうの・・・で、いっぱい野菜ができちゃった」と。うわっ、面倒くさそうと思いつつも、鈍った身体も動かせるし自家製野菜で健康にも良さそうで、家計の負担軽減に繋がるかも、と思い巡らしましたが、酒をたらふく飲んでいたこともあり、その後はすっかりそのことは忘れてしまっていました。

そうこうしているその年の秋、市の広報誌に「身近な農園で新鮮な野菜を作ろう・利用者募集」の掲載記事とともに、大きく育った野菜の中で満面の笑みで写真に映っている、とある家族の写真。おまけに「週末に家族でたくさんの野菜を収穫するのが楽しみです」というコメントが。この瞬間、夏の飲み会の話しがこのことだったのかと思い出し、野菜作りをしている自分も悪くはないなと、ダメもとで応募し、待つこと2ヶ月。翌年の1月、運よく当选通知が自宅に。農園利用開始は3月から。さあ、それ

からが大変です。春先に種を蒔く野菜は何か、どう育てていつ収穫するのかなど、農作物の知識が全くない自分にとってはさっぱり分からないことだらけで、果たして野菜はできるのだろうか、と不安な気持ちで頭を過ぎり、向かった先が駅前本屋。普段は通り過ぎてしまう家庭菜園コーナーも、よくよく見るとかなり充実しており、数多くのノウハウ書籍がズラリと並んでいます。とりあえず、初心者用参考本を1冊購入。サラッと読んでみたものの、畑の土作り1つ取っても、土は弱酸性にし、堆肥を与えて保水をし、畝を作って・・・等々、野菜作りというのはそう単純ではなく、とても奥が深いものだと思い知らされました。普段、スーパーや八百屋さんで買っている野菜は、農家の方が丹精込めて作り収穫したのだろう程度しか思っていなかった自分にとっては、野菜作りの大変さを改めて考えさせられたのと同時に、都会に住んでいる人が「田舎に移り住んで、のんびりと畑で野菜でも作るかなあ」と言うことを耳にすることがありますが、その程度で軽々しく言うのはいかがなものかと、参考本1冊、しかもその数ページをカジッただけでしたが、そう感じ、思った次第です。

とにもかくにも、はじめのうちは、参考本の上辺だけの知識と、同じ農園の方々のやり方を盗み見しながら、見よう見まねで野菜作りをスタートしました。

案の定、順調にいく訳もなく、失敗例をあげたらきりがありませんでした。インゲンの芽を鳥に食べられた、害虫駆除をせずダイコンを腐らした、土の手入れをせずホウレンソウが生育しなかった、霜でジャガイモを枯らした等々。こういう時は自分の野菜作りのセンスの無さに、ただただ無力感と脱力感に襲われていました。また、今年はナスの生育が思いのほか良く、秋ナスの大収穫に期待していた矢先、

9月の台風直撃の影響で元気だったナスが一気にしおれてしまい、その惨事を見た時には涙が出そうなくらい悲しい気持ちになりました。

でも、そういう時こそ声を掛けてくれる方がいます。それは同じ農園で野菜を作っているおじいちゃんやおばあちゃんな



どの野菜作りの諸先輩の皆さんです。失敗したときには「ああした方がいい、こうした方がいい」と言ってもらい、うまくできた時には「ずい分立派に作ったねえ」と褒めてもらい、農園に野菜作りに行くというよりは、むしろ勉強をしに行く学生の気分でした。今では、そういった方々と野菜作り談や失敗談、昨今の世の中の話まで話しが盛り上がり、そういった情報交換をするのも農園に行く楽しみの一つになっています。

また、収穫した野菜を食卓に出すのも（もちろん、料理をするのは妻ですが）、家族のコミュニケーション作りに大いに役立っています。夕飯のおかずが全て農園で収穫した野菜だった時でも、喜んで美味しいと言ってくれる家族に対しては、“生産者”としての威厳が保てたような気分になります。もっとも、家族の皆は、野菜オンリーでは欲求不満というのが本音だったかもしれませんが。一方、子供達にとってはサツマイモやジャガイモ掘りが特に

人気のようで、収穫祭と銘打って、農園でワイワイガヤガヤ、泥んこになりながら賑やかに収穫するのも、我が家の毎年の恒例行事となっています。

春夏秋冬、その時々には収穫できる野菜をイメージしつつ、そのための種まきや植え付け時期を頭で考え、しつこく食い下がる害虫の退治を指先に任せ、雑草取りや鍬で畑を耕すことで足腰を鍛えるという、まさに、頭と身体健康増進活動、とも言えるでしょう。

農園で野菜作りをはじめて、今年で6年目になります。収穫した野菜をいつも美味しいと言って食べてくれる家族に感謝し、いろいろな方との農園での触れ合いを大切にしながら、これからも愛情を込めて野菜作りに精を出そうと思っています。

ちなみに、自宅の庭に小さいながらも畑を作ってしまったのは、年々応募倍率が上昇している農園利用に対して、万が一外れた場合の“保険”，といったところでしょうか。